

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	こうのすケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	平成23年1月9日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年2月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○季節を感じていただける様なイベント行事を、踊りや楽器などボランティアの協力や職員の演出により行い、楽しんでいただいています。○家族も参加され、外食やコンサートなどに出かけ、気分転換を図っています。○毎日の食事作りの他、誕生会やフードセラピーでおやつ作りも楽しんでいただいています。○毎日散歩の時間を作り、利用者の意見を尊重しながら外出の機会を設けています。○季節感あふれる手工芸を作成し、展示することで張り合いや楽しみとなっています。○身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会主催のグループワーク等を全職員で実施することで、身体拘束廃止の意識を高めています。○消防署・消防団・地域等の合同避難訓練や、夜間連絡網の防災訓練を定期的実施しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に参加したことにより、地元との結びつきが強くなり、祭の神輿担ぎへ参加したり、住民との合同での避難訓練が行われるなど、地域密着の事業所運営がなされている。また、季節に合わせた行事を積極的に取り入れ、節分にちなんで「恵方巻き」作りを行い、利用者がそれぞれ役割を持って参加し、自信と意欲の向上につなげている。  
平成21年度の目標達成計画(運営推進会議を活かした取り組み)について、市担当者の会議への参加もいただけるようになり、特に災害対策について具体的な課題に沿って助言をいただくなど、情報の共有がなされている。また、(チームで作る介護計画とモニタリング)についても、利用者が自立への具体的な目標を書き出し、それを職員も応援することで、利用者の励みとなり、そのことからプランの見直しなどの成果に繋がってきていることから、それぞれの課題の目標達成がうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作った「笑顔で生活。安心・安全な環境」を理念に掲げ、住み慣れた地域で一人ひとりの利用者が安心した環境の中で過ごしていただけるようにしたい。	利用者の思いと職員の考えを積み上げ、地域密着と自立支援を柱に、事業所独自の理念が創られている。その理念をもとに、利用者への小さな気配りを大切に、笑顔の絶えない生活に向けた支援が行なわれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会へ参加し、地域の様々な行事へ参加したり、施設のイベントに招待するなど、積極的に交流を図っている。また、毎月ボランティアの集会・発表場所として提供している。	自治会にも加入し、地元のまつりで、職員が神輿の担ぎ手に参加したり、地域の消防団や住民との合同の避難訓練も実施されており、地域とのきめ細かい関わりが築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成のため介護職員基礎研修・訪問介護養成研修・大学生福祉課程の実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1回ではあるが、市役所も参加していたき情報交換を行い、毎回、非常災害対策などの具体的な議題にそって話し合いを行い、助言や意見を頂いている。また、会議での意見などは改善点をミーティングで話し合い、実践している。	運営推進会議では、参加者である家族や地域包括支援センターの職員より、防災対策などの情報や助言もいただいている。それをもとに事業所内でのミーティングも実践され、事業所の運営・ケアの質の向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービスについて取組状況、報告、相談等、良好な関係作りに取り組んでいる。	運営推進会議開催時や市担当者を訪問した際に、事業所としての活動報告や相談を行っている。また、担当者からは介護業界の現状や活動状況などの情報提供もされ、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の主催で勉強会や全員参加のグループワークを行いケアの徹底をしている。利用者が外出する際は一緒について安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。	事業所として、ユニークな取り組みが行われ、全員が身体拘束廃止のためのワークシートを作成し、それを現場にどう反映させるかの活発な話し合いが行われている。また、言葉使いなどは、職員自らに気付かせるよう研修や勉強会が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を設け、高齢者虐待・身体拘束の事例検討会、勉強会などを行い全職員に統一した対応を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は社内研修や勉強会において統一した知識を身に付けている。また、成年後見制度が必要なケースでは管理者、計画作成担当者が対応し必要な支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ、不安や疑問がないか伺い納得いただけるよう対応している。料金や緊急時の対応などについても説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族会、運営推進会議において意見、要望を出していただく機会を設けている。利用者やご家族から頂いた意見、要望はタレで話し合い、統一した対応を申し送りして全職員へ周知している。常にコミュニケーションをとり利用者本位の運営を心がけている。	家族会や運営推進会議を中心に家族との交流を行い、利用者・家族が忘年会で一緒に料理を作り、みんなに振舞ったり、「最近歩くことが減っている」との家族の要望をもとに、歩く目標を決めて応援するなどの成功例も生まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、または個別面談にて職員の意見を聞き、質の向上につなげる取り組みを行っている。新人には3ヶ月の研修報告書の提出によりきめ細かな指導のもと、不安を取り除く体制作りにも努めている。	現場の職員の意見を聴きとり、業務マニュアルの見直しを実施したり、管理者やリーダーは自分の考えを押し付けるのではなく、職員の考えを積極的に取り入れ、責任を持って業務に取り組めるよう配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、現人の研修の実施を含めた、さまざまな研修参加の機会のほか、支社内の意見交換会などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には加入していないが、グループホーム協議会主催の勉強会の参加や、認知症ケアネットへの参加の他、支社内センターとの意見交換会に参加する事で、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は必ずご本人にあつて心身の状態や思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を理解し、家族が困っていること、不安に思っていること、要望などゆっくり聞くように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者から教えていただく場面が多く、職員と利用者の信頼関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや要望をお聞きすると共に、日頃の様子やご本人の思い、職員の考えを細かく伝えていくことで、支援の方向性を一致させ、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所する際は、馴染みの物を持参して頂くことで落ち着いて生活できる環境作りに努めている。また、利用者の住んでいたところの名所へ出かけたり、名物を作ったりして思い出を断ち切らないように支援している。	併設のデイサービス利用の知人と交流を始めたたり、古いつきあいの友人への手紙や年賀状の取次ぎも行い、一緒に投函に行くなど、今までのつながりを継続できるよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族、他事業所の相談にのって支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切にしながら、日々の関りのなかで、言葉や表情、行動などから利用者の思いをくみとり、意向の把握に努めている。	利用者との信頼関係を築き、思いや意向を聴きだせるように、利用者とは1対1で話をする機会を多く設けている。また、職員側の思い込みや決めつけではなく、利用者の出来ることにも気遣い、要望や思いの把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用を開始する際にご本人、ご家族から聞き取る他、利用後もご本人、ご家族とのコミュニケーションの中から生活歴や馴染みの暮らし方、生活状況などをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、言動や小さな変化を見逃さないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望を聞き、課題となることをケアカンファにて話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。毎月の目標を決め、居室に張り出し、達成状況の応援を実施している。	利用者や家族、職員の意見をもとに作成された介護計画の実現に向けて、日常生活の小さな目標を利用者が決めて、居室に貼り、達成に向けて職員も一緒になって取り組まれている。成果も現れて、次の介護計画作成にも役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量、排泄などの身体状況、その日の様子などご本人の言動などを個々のファイルに記録している。また、個別記録をもとに介護計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。グループホーム内の浴槽使用が難しい方にはディサービスの機会浴槽で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員と意見交換をする機会を設けている。ハーモニカのボランティアが毎月来所したり、防災訓練に消防署、地域の消防団が参加してたりと安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族の希望するかかりつけ医となっている。家族が対応困難な場合には事業所の協力医療機関等を紹介し、訪問診療してもらうなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	医療機関の選択は自由であり、家族の協力も得ながら、受診支援が行われている。医療機関に利用者の現在の状態について報告や問い合わせを行い、回答を得るなど、連携もスムーズであり、情報の共有がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員に相談し、利用者の健康管理、状況変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、ご家族と情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。安心していただけるよう職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を話し合いながら、かかりつけ医と相談し、状況の変化に応じた支援を行っている。急変した場合はすぐに対応していただける様、医療機関との連携を図っている。職員間では利用者の状況を共有しチームでの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた利用者・家族の意向、事業所の方針などは、介護計画にも落とし込まれ、医療との連携も図りながら対応されている。また、実際の状況での対応について、職員の勉強会も行われ、利用者の安心への配慮がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急手当や蘇生方法などの普通救命講習を定期的を受講し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火の訓練を行ったり、消防署・消防団・地域等の合同避難訓練や夜間の緊急連絡網の通報訓練を定期的に行っている。	自治会長・民生委員に協力をいただいて、地域住民へ防災訓練の案内を配布し、参加を募り、多数の地域の人に参加していただくなど、協力体制も築かれている。また消防署の協力で、地域の住民に事業所内を視ていただき、周囲の方からの理解も得られている。	災害発生は予測不可能なことから、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、更に、地域住民の協力者の確保など、日頃から何度も確認しあいながら進めていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	利用者一人ひとりを尊重するという当たり前の考え方が、職員間に浸透しており、それが自然に言葉使いなどにも現れている。また、職場内の事は決して外部で話題にしない指導や、守秘義務への徹底がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて言葉かけし、意思表示困難な方には表情で読み取れるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きしたり、ご家族に好みを伺ったりしながら、ご本人に沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から準備、片付けなどを一緒に行っている。昼食はセレクトで選んでいた。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。フードセラピーなどで昼食やお菓子作りもしている。	食事は2種類から選んで、好みの物が食べられるよう取り組みがなされ、職員も一緒にテーブルで会話を弾ませながら楽しい雰囲気の中で食事が行われている。また、折込チラシをもとに、利用者の希望で牛丼を食べに行くなどの支援もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェック表に記録し、職員が共有して一人ひとりの習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声がけを行い、一人ひとりに応じた見守りや介助を行っている。就寝前は口腔ケア後、義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターン、習慣などを把握してトイレ誘導をしている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表の活用やタイミング良い誘導などにより、自立支援に向けた取り組みが行われている。また、失敗した時も、利用者の気持ちを察し、尊厳への配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くする食物や毎日の食事の食材の工夫により、自然排便を促している。また、運動への働きかけや家族希望の食材などにより、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外毎日、夕方4時から行っている。季節により、柚子湯、菖蒲湯などで演出したり、日によっては同施設内デイサービスの大浴場で入浴を楽しんでいただいたり、個々の希望にそった支援をしている。	家庭生活の延長と捉えて、自宅で入浴しているように個浴対応で、生活の自然な流れとして、夕方の入浴などの配慮がなされている。また利用者からの提案で、入浴の順番を曜日で変えるなどの工夫も図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜、寝付けない時は温かい飲み物を飲みながらゆっくりおしゃべりするなどして、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを用いて処方箋のコピーをケースに整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡しし、きちんと内服できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力をいかして仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。外出やイベントなどの企画を相談し、一緒に決めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を毎日の日課にしており、利用者個々の身体能力に合わせて距離を調整している。家族会開催の機会に、ご家族と一緒に行きたい所へ一緒に出かけられるように支援している。	職員側の考えで決め付けることなく、利用者の声に応じて、音楽のコンサートに出かけたり、スーパーでの日用品の買い物やホームセンターに車で出かけるなど、利用者の意向に合わせた支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、家族の協力を得て所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は事務所や、居室でお話できるようになっている。年賀状を出す為の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での音や匂いなど利用者が安心して生活を感じることでできる環境作りを大切にしている。季節ごとの料理やお菓子作り、利用者が作成する特大カレンダーや作品を飾ることで季節を感じていただいている。	利用者がみんなで作り上げた巨大カレンダーを壁に貼り、それを見ながら行事の確認や話題の共有が図られ、コミュニケーションの場として利用されている。また、生活感のある音や匂いによる五感への刺激にも気を配り、居心地の良い共用空間作りへの工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、フロア内のソファ、畳などで自由に過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの思いやこだわりを大切に、好みや馴染みの物をいかして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と職員がいつしょに生活目標を居室内のカレンダーに貼ったり、手工芸品を飾りつけたり、利用者の希望に合わせて、安心して過ごせる居室になるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全の確保と自立への配慮をしている。		

(別紙4(2))

事業所名 このすケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 5月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	35	災害発生は予測不可能なことで、職員だけでは限界があると想定される。	地域をまきこんだ避難訓練の実施を増やす。	6,8,11,2月に防災訓練を企画し、地域住民に参加してもらい、日頃からの協力体制を依頼する。 12ヶ月
2	27	利用者のたてた目標について支援しているが、達成感が得られないのかマンネリ化してしまう。	利用者が達成した喜びを感じる。	フロアに目標達成に向けた東海道五十三次を作成し、往復で旅をしている様な気になってもらい、達成目標により賞を出す。 6ヶ月
3	35	東日本大震災をふまえて、避難する際、頭を守りながら、逃げなくてはならない。	1人1個ずつ、バスタオルを使って防災頭巾を作成する。	作業レクレーションとして、楽しみながら裁縫を行い、実用的な防災頭巾を作成する。 1ヶ月
4				ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。